

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	北海道支部	(2) 記載者氏名:	鈴木 貞信	会員番号:	13645	事務局整理記入欄	北海道 - 57
分水嶺区分	H096上ホカマツク山～H098下ホカマツク山	(3) 山行日:	2004年	5月	1～3日	(4) 天候	晴/吹雪

(5) 参加者氏名および会員番号				サポート要員氏名および会員番号				積雪 1m
CL田島祥光	13058	大崎勝子	13269					
SL助田陽一	12995	鈴木貞信	13645					
助田梨枝子	12966	中谷秀子	13657					
漆崎裕子	13041	鈴木美紀	会友10					
計			8名	計				名

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	十勝岳温泉 上ホカマツク山 境山 下ホカマツク山(往復)												
アプローチ:	帯広・札幌 上富良野町 十勝岳温泉(往復)												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
1日 歩行開始点	十勝岳温泉	十勝岳	142	38	35.6	43	24	50.2	1274		8:35		8
分水嶺到達点H096	上ホカマツク山	"	142	40	17.5	43	24	18.0	1923	13:35	13:45	B-4	
分水嶺離別点	1846m	"	142	40	32.4	43	24	14.9	1846	13:55	-	"	
歩行終了点	上ホ口避難小屋	"	142	40	31.1	43	24	25.8	1827	14:05		"	8
2日 歩行開始点	"	"								6:05		"	8
分水嶺到達点	1846m	"	142	40	32.8	43	24	14.8	1856	6:15	-	"	9
H097	境山	"	142	41	36.0	43	23	16.6	1842	7:55	8:15	"	9
	P1827	"	142	42	0.1	43	22	56.8	1830	8:45		"	9
	二班分離点	"	142	42	14.1	43	22	45.1	1793	9:05	9:25	"	9
	1269コル	"	142	42	51.7	43	22	9.1	1277	10:30	10:55	"	9
H098	下ホカマツク山	"	142	43	10.2	43	21	38.8	1669	12:20	12:45	"	9
	1269コル	"	142	42	51.9	43	22	9.1	1277	13:25	13:45	"	9
	P1808	"	142	42	11.7	43	22	46.6	1808	15:50	16:10	"	9
	P1827	"	142	42	0.7	43	22	56.3	1830	16:25	-	"	9
	境山の下	"	142	41	36.9	43	23	17.9	1828	17:15	-	"	9
分水嶺離別点	1850の下	"	142	41	15.3	43	23	44.1	1739	17:50		"	9
歩行終了点	上ホ口避難小屋	"	142	40	31.10	43	24	25.20	1,830.0	18:45		"	8
3日 歩行開始点	"	"								8:55		"	10
歩行終了点	十勝岳温泉	"	142	38	35.50	43	24	50.20	1,275.0	11:10		"	8
総歩行時間(休憩時間を除く):											16時間45分		
分水嶺距離											6.8km	その他距離	10.9km

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
H097	境山	3	未確認	良好	大正6年5月14日撰点
H098	幌神女徳	2	西	良好	標石は上部20cmが雪の上に出ている。 明治44年5月9日撰点

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

上ホ口避難小屋は使用できた(上富良野山岳会の方々及管理を兼ねて毎週来ている)。外のトイレはブース内吹き溜まりのため使用出来ず。十勝岳温泉公共駐車場の公衆トイレは冬期閉鎖中(5月中旬過ぎから使用できる予定)
--

(9) 水および植生に関連した特記事項

上ホ口～下ホ口の分水嶺上の北側にシイ十勝側、南側にシーソラチ川が雪の下ではあるが流れている。
分水嶺上の大半は雪であるが、所々にハイ松が出ている他、昨年のコケモモの赤い実やガンコウランの黒い実が残っていた。
下ホ口下の1269コルは湿地帯らしく開けている。周りをトドマツ、ダケカンバなどが囲んでいる。
下ホ口の斜面には、雪の上にハンノキ、ハイ松などの低木が顔を出していた。

(10) その他の特記事項

1～2日は快晴で360度の眺望を楽しみながらの登山であったが、3日は一転強風雪で、稜線上や急斜面のトラバースではアイゼンやピッケルでも危険を感じた。
--

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: 境山三角点を囲んで 1827直下からの下ホ口
